



## VOL.19 軽自動車は普通車に比べてホントに危険なの？

このコーナーではクルマに関する  
為になる雑学をご紹介します。  
意外と知らないことがあるかも!?



「軽は事故をした際に危ないから!」などということを目にした記憶はございませんか? 軽自動車は普通車に比べて本当に危険なのでしょうか? それともこれはただの噂話にすぎないのでしょうか?

現在、国内の公道を走っている乗用車の、3分の1以上の車が軽自動車です。軽自動車は「維持費が安い」「ボディがコンパクトなので狭い道路でも走ることができる」「車庫入れがしやすい」などといった様々なメリットがあり、ボディの大きな普通車に比べ、気軽に乗ることができます。今回は、軽自動車が普通車に比べて本当に危険なのかどうかを考えていきたいと思います。



### 1 軽自動車の安全装備はかなりハイレベル

軽自動車は危険だといわれますが、安全装備という点だけで考えれば、現行の軽自動車は普通車と比べて全く遜色無いといえていでしょう。エアバッグはもちろんのこと、ABS(アンチロックブレーキシステム)、衝突防止装置などはあたり前ですし、グレードによっては普通車以上の安全装備が装着されている軽自動車もあります。20年~30年前であれば、一部の高級車にしか取り付けられていなかったような、これらの安全装備が今では軽自動車に普通に装備されるようになってきました。また、エアバッグに関しても、運転席と助手席だけでなく、サイド&カーテンエアバッグなどもオプションで装着が可能な軽自動車もあります。このように安全装備という点から見た場合、決して軽自動車は危険な車ではないということがわかります。



↑ 車両重量に大きな差があるため、軽自動車は大破してしまい、ドライバーも無傷でいられる可能性は極めて低い。

### 2 「軽自動車が危険」と言われる理由①

安全装備面だけをみれば決して危険というわけではない軽自動車ですが、本当に危険だといわれる理由は別のところにあります。それは、コンパクトなボディであるがゆえの“車体の軽さ”です。正面衝突や交差点などでの車同士の事故を想定した場合、車体の軽い車の方が大きな衝撃を受けることは容易に想像がつくと思います。

分かりやすい例として、軽自動車が10tダンプカーと正面衝突をした場合を想像してみてください。軽自動車は大破するのにに対し、ダンプカーはそれほど大きなダメージはなく、運転手もほぼ無傷である可能性が高いです。軽自動車の車重が1t未満なのに対して、10tダンプの重量は空荷でも10t以上、満載状態だと20tにもなりますから、お互いがぶつかったときの衝撃の差は歴然です。このように、車両重量という点だけを考えた場合、1tに満たない軽自動車が車同士の事故を起こした場合には、圧倒的に不利であり、危険であるということは容易にイメージできると思います。ちなみに国産乗用車の中で最も重いといわれているランドクルーザーの車体重量は2.5tほど。軽自動車3台分の重さとなりますので、単純に重さだけで考えた場合は、国産乗用車で一番安全な乗用車はランドクルーザーということになります。ただし、車両重量のある車に乗るといことは、自分自身が安全になる反面、事故を起こした時には他の人に致命傷を与えてしまう可能性が高くなりますので、より慎重な運転が求められます。

### 3 「軽自動車が危険」と言われる理由②

軽自動車は、全長3.4m以下、幅1.48m以下、高さ2m以下という限られたサイズのなかで、室内の広さを可能な限り広くするように設計されています。その結果として、クルマが衝突したときの衝撃を吸収するためのスペースが犠牲になってしまっているのです。クルマには、ぶつかったときに衝撃を吸収するための“クラッシュブルゾーン”というものが設けられており、クラッシュブルゾーンが潰れることによって、衝突の際の衝撃を緩和することができるのです。限られたボディサイズの中で、室内の広さを確保しようと思ったら、どうしてもこのクラッシュブルゾーンの広さが犠牲にならざるを得ないというわけです。軽自動車のドアを開けてみるとわかりますが、ドアの厚みが普通車と比べてあきらかに薄くなっています。例えば、ワゴンRの全幅は1475mmなのに対して、室内幅は1355mm。この数字をもとに計算をしてみると、ドアの厚みは60mm。比較対象としてトヨタのプリウスは、全幅が1760mmなのに対して、室内幅は1490mmなので、ドアの厚みは135mmあることになります。こうして比較すると軽自動車と普通車には「ボディの厚み」にも差があることがわかります。



↑ 同じ軽自動車でも、スズキ ジムニーは全幅1475mm、室内幅1300mmと厚みが175mmもある。



乗用車としてのメリットが非常に高い軽自動車。自分だけの単体での事故ならまだしも大きな車との事故は非常に危険なので、運転する上で頭の片隅に置いて安全運転を心がけましょう。